

COP11 開会式 松本元大臣挨拶 (日本語仮訳)

各国代表団の皆様、

会議参加者の皆様、

COP11 開会式において一言申し上げることは大変光栄です。まず、インド政府の周到な準備、温かいホスピタリティーに厚く感謝申し上げます。

COP10 は、愛知目標や名古屋議定書の採択など大きな成果が得られた、歴史的な会議でした。議長を務めた者として、みなさんのご協力に改めてお礼を申し上げたいと思います。あの合意を成し遂げたのは、地球上の生物多様性の損失を食い止めるためには今行動しなければならない、という参加者ひとりひとりの共通の思いだったと感じております。

しかしながら、実施されなければ何の変化も生まれません。これまでの2年間、国家戦略の改定や、名古屋議定書の早期発効に向けた検討など、COP10 の成果が、世界各地で一步步実行に移されていることを歓迎したいと思います。COP11 において、なお一層の努力が必要となる課題について、それを乗り越えるための新たな方策が合意されることを期待します。

2011年3月に日本の東北地方で大震災が発生しました。多くの国から温かい支援をいただいたことに感謝申し上げます。この震災によって自然の脅威を改めて思い知らされましたが、同時に、森と海の恵みの大切さを再認識しました。

COP11 では、「自然を守れば、自然が守ってくれる」というスローガンが掲げられていますが、このスローガンは、今私が申し上げたことを端的に表した、大変素晴らしい表現だと思います。私たちの生活を脅かす生物多様性の損失は、依然として進行しており、愛知目標の達成に向けてまだまだ多くの課題が残されています。私たちは、危機感をもってこの問題に対処していこうではありませんか。

最後に、インド政府のリーダーシップのもとでの実りある討議と、会議の成功を心から祈念して、私の挨拶とさせていただきます。